

市長記者会見てん末

日時：平成24年8月23日（木）午前11時

場所：市役所4号棟第4会議室

【出席者】

報道機関：朝日新聞社、岩手朝日テレビ、岩手日報社、岩手めんこいテレビ、NHK、共同通信社、しんぶん赤旗、テレビ岩手、読売新聞社

市：市長、企画部長、広聴担当者

1 開会（企画部長）

定刻になりましたので、ただいまから市長記者会見を行います。

2 市長あいさつ

皆様には、日ごろから市政の推進にご協力をいただきありがとうございます。今日は8月下旬以降の行事予定などについて説明いたします。お盆を過ぎてもたくさんの方が陸前高田を訪れていらっしゃるようで、関東エリアは今月いっぱい夏休みで、こちらはもう2学期に入っているわけですが、訪問者のピークは過ぎていると思いますが、かなりの方が、一本松を訪れているように思います。それでは、会見項目についてお話をさせていただきます。

3 会見項目

8月下旬以降の行事予定についてですが、8月27日、28日に名古屋の中学生が訪問されます。市内の中学生は昨年から名古屋市にお招きいただいているわけですが、今回は名古屋市の中学生在、陸前高田市に来るということです。この間お世話になっておりました、小友中学校・米崎中学校生徒との交流や視察、カキ養殖業の体験などを行います。これは河村市長からも言われておりましたが、都会の子どもは第一次産業を理解していないので、ぜひ体験できる機会を設けたいとのことで実現したものです。陸前高田の子どもは都会の良さを感じてほしい、逆に、都会の子どもは田舎の良さを体験するという企画の第一弾です。

8月30日には、キャピタルホテル1000を支援している三菱商事との調印式が行われます。三菱商事の復興支援財団からホテルに1億円の出資がなされるということで、その調印式を30日の午前10時から行うということでございます。

9月2日には、全国太鼓フェスティバルの入場手形の販売が行われます。昨年は本市で開催することができず、青年会議所の力をお借りして、ナゴヤドームで行いましたが、そのときフェスティバル実行委員会の会長が、「規模が小さくても陸前高田で開催したいとおっしゃっていましたが、手形は700枚販売するというので、例年の半分以下の規模で

すが、フェスティバルが行われるということです。

同日、水防演習が横田町で行われます。これは大雨、台風による洪水を想定して、積土の工法、シート張り工法などの訓練を行うということでございます。

また、同日メモリアル公園構想会議のフォーラムが行われます。東京工業大学の中井先生や構想会議委員が参加し、一般市民も参加可ということでございます。

9月5日は、9月定例会に際して、記者会見を行います。

9月8日、9日にはツール・ド・三陸が行われまして、350名の選手がすべてエントリーされているということです。詳細は資料の4ページにありますが、さらなる詳細は30日に行われる実行委員会で決定する予定です。

9月15日には、高田高校建設鉄入れ式が行われます。高田高校は3.11で全壊しているところですが、岩手県においても、高田高校の再建は急ぐべきだということで、県のご尽力によりここまでこぎつけました。

9月25日は、高田海岸の着工式が行われまして、これは第一線堤、低い方の松原の砂浜の背後にあったところの工事の着工式が行われるということでございます。先ほど申し上げました名古屋市との交流については、資料の3ページにありますが、初日は平泉を訪問し、翌日に陸前高田市に来るということでございます。

(企画部長)

8月下旬以降の行事について、質問がありましたらお願いします。

<質問なし>

(企画部長)

なければ、公物解体について説明いたします。

(市長)

それでは、資料の2ページの公物解体についてですが、中央公民館にあったメッセージでして、どうすれば残せるかということですが、壁の横幅が1m強、高さが1.5m、厚さが15cmくらいで、これを切って保存するという計画を立てています。切った後の重さは560kgで、現時点では保存する場所がなかなかないので、生出小学校に保存し、復興に合わせてどこに保存するか検討します。費用は220万円ほどかかりますし、体育文化施設の解体が、9月下旬から行われますので、2週間前に保存作業を始めるということでございます。

(企画部長)

それでは、公物解体について、質問がありましたらお願いします。

(記者)

市として残すことになった気持ちを教えてください。

(市長)

中央公民館の壁の件は、メディアが大騒ぎしたということで、これについては、市民の方からの意見はありませんが、震災を今後のために忘れないということで、これを残して、当時どうだったのかと言いますか、後世の人たちにこういう事実があったんだということをお伝えするという事。ご遺族の皆様のご意向もありますので、どんな形で、市民の皆様に、来訪者の方にお見せするのか決めておりませんが、有効に活用することになりました。

(記者)

生出小学校に保存ということですが、然るべきときにメモリアル公園が完成した際に設置するというのでしょうか。

(市長)

メモリアル公園の中身ですが、具体的には決まっています。関係者や国の考え方にもよりますが、我々は将来資料館が建てられることがあれば、そこに設置するなど、今後の検討課題になります。

(記者)

他の市の建物の解体はいつごろになりますか。

(市長)

体育文化施設は9月下旬と、他の施設も設計は行われていますので、旧市役所は逆算をすると年度内に解体が終わるということになります。

(記者)

旧市役所については、あそこで手を合わせるということですが、その予定は変わらないですか。

(市長)

手を合わせる場所については、一本松は9月のどこかで解体の工期が見込まれますので、一本松もない、旧市役所もないということでは、手を合わせていただく場所がないので、内部で検討します。

(記者)

それは、献花台のようなものと解釈してよろしいでしょうか。

(市長)

今は市役所の前に千羽鶴などが置いてありますが、そういった場所が無くなってしまおうと困りますので、献花台などを設置しようと検討しているところです。

(記者)

一本松の作業スケジュール、日程を教えてください。

(市長)

詳細はまだ決定していません。正式な見積りは8月末で、来年の3月11日までにはきちんとした形で、一本松が元の場所に設置することを想定しています。8月中に作業日程を確定させるということです。

(記者)

BRTのことで伺いたいのですが、月曜日に全員協議会で示されましたが、小友・米崎はアップロードを使った高台を使った路線で検討しているのでしょうか、BRTを使った仮復旧への期待を教えてください。

(市長)

議会に説明したとおりで、仮復旧は期待ということで行くと、今は公共交通は最悪の状態、県交通に相談していますが、運転手、バスの台数の問題などがあり、どうにもならない部分があります。BRTは言わばバスですよね。一関や気仙沼への速達性を考えた場合、鉄道ではない新しい生活形態として、病院、買い物をする場所で皆さんが利用できるものであることが理想です。鉄道とは別次元で、市民の利便性を考えた上では、仮復旧でも、市民の理解は得られるのではないかと考えています。

(記者)

JRが提案しているルートで、市が不満なところは、新しく要望するのでしょうか。その詳細を教えてください。

(市長)

JRの示した路線は、誰も住んでいないところ、危険なところ。駅を意識したもので、叩き台として出されたものですが、鉄道でないところに、バスとしての利便性を求めていますので、仮設住宅の皆さんが利用できる路線で要望したいと考えています。

(記者)

JRについて、市民からの要望はどのようなものが挙げられていますか。

(市長)

立場によって違うとは思いますが、高校生、PTAでは通学の利便性をおっしゃいますし、大船渡まで早く行けるようにしたり、本数を確保したりという思いが強い。コミュニティや各種団体の方にも意見を聴きましたが、皆さんに共通なのは、不便なのでそれを解消してほしいということです。

(記者)

新しいルートが高台で、市民の利便を考えているということですが、なぜこのルートが必要かということをいかに説明するのですか。

(市長)

非公式でもＪＲとは何度も話していますが、ＢＲＴの中で市民に理解が得られるように、ＪＲには今、公共交通が確保されていないところをカバーしてもらいたいと考えています。今回示されたルートでは、それがカバーできないということです。

終了 午前 11 時 25 分